

### 第百三話 暁部隊 陸軍の船舶部隊

海軍に陸戦隊があったことはよく知られているが、陸軍に暁部隊との美称で呼ばれる船舶部隊があったことは意外に知られていない。

#### 1 船舶司令部と暁部隊

船舶司令部は、戦時における軍隊・物資等の船舶輸送を指揮統率した陸軍の組織である。船舶司令部が統括した陸軍船舶部隊は、各隊に与えられていた通称号の兵团文字「暁」から「暁部隊」と通称された。最大約 18 万人の将兵が在籍した。

#### 2 沿革

1904(M37)年 4 月 陸軍運輸部設置(台湾陸軍補給廠の改編)

1937(S12)年 8 月 第 1 船舶輸送司令部が動員(司令部を広島県宇品)

司令官は陸軍運輸部長が兼務し、運輸部が平時業務を、輸送司令部が戦時業務  
1940(S15)年 6 月、船舶輸送司令部を臨時編成し、大泊・小樽・東京・新潟・敦賀・大阪・神戸・門司・釜山・羅津・大連・高雄に支部を設置。司令官変わらず。

1942(S17)年 7 月 船舶輸送司令部を船舶司令部に改編

船舶部隊の改編も行われ、第 1 船舶輸送司令部(大本営直轄)、第 2 船舶輸送司令部(中国方面)、第 3 船舶輸送司令部(南方方面)、及び上陸作戦部隊を統一した組織として船舶兵团を新たに編成した。

1942(S17)年 11 月、第 4 船舶司令部(ソロモン諸島・ニューギニア島方面)

その後、第 5 船舶司令部、第 7 船舶司令部が編成された。

1945(S20)年 5 月には、新設された大本営海運總監部が全船舶を国家船舶として一括管理することになった。

#### 3 船舶工兵から船舶兵

従来は、上陸用舟艇等の船舶兵器を実戦において運用していたのは工兵(「船舶工兵」・「上陸工兵」と呼称)の一部であったが、1943 年(昭和 18 年)に船舶兵として独立した兵種となった。



#### 4 保有船舶等

揚陸艦・機動艇・装甲艇・駆逐艇・高速艇甲/乙・潜航輸送艇  
等多様な船舶を保有

大型の揚陸艦の操船は民間海運会社からの派遣船員(軍属)が中心、船舶兵は自衛武装や搭載舟艇、対潜哨戒機の運用を担当していた。なお、機動艇以下の中小型艇や上陸用舟艇等は船舶兵自身が操船を行った。船舶兵は手旗信号などに通暁していた。

船舶の自衛武装操作のため、船舶砲兵連隊が編成され、必要に応じてその一部が各陸軍徴用船に「船砲隊」として乗船することになっていた。各種火砲のほか対潜用の爆雷や迫撃砲の運用も行った。

#### 5 原爆投下と船舶司令部・暁部隊

1945(S20)年 8 月 6 日の広島市への原子爆弾投下で壊滅またはそれに近い被害を受けた軍部隊や官公庁が機能停止に陥った。爆心地から 4km 前後離れていた宇品に駐屯し大きな被害を受けなかった船舶司令官(佐伯文郎陸軍中将)が、翌 7 日以降「広島警備本部」として市内の救援活動や警備活動の指揮をとることとなり県庁・県防空本部を指揮下に入れた。麾下の暁部隊は市内での活動に総動員され、これに従事した部隊員の中から多くの二次被爆者を出すことになった。被害を受けた広島電鉄の復旧のため、部隊が所有していたマスト 300 本が電柱として利用された。

\* 海軍には海軍陸戦隊があり、日本では第三の軍種 空軍及び海兵隊の発想はなかったのか? あったとしてもその実現には至らなかったのだろう。

(第百三話 了)